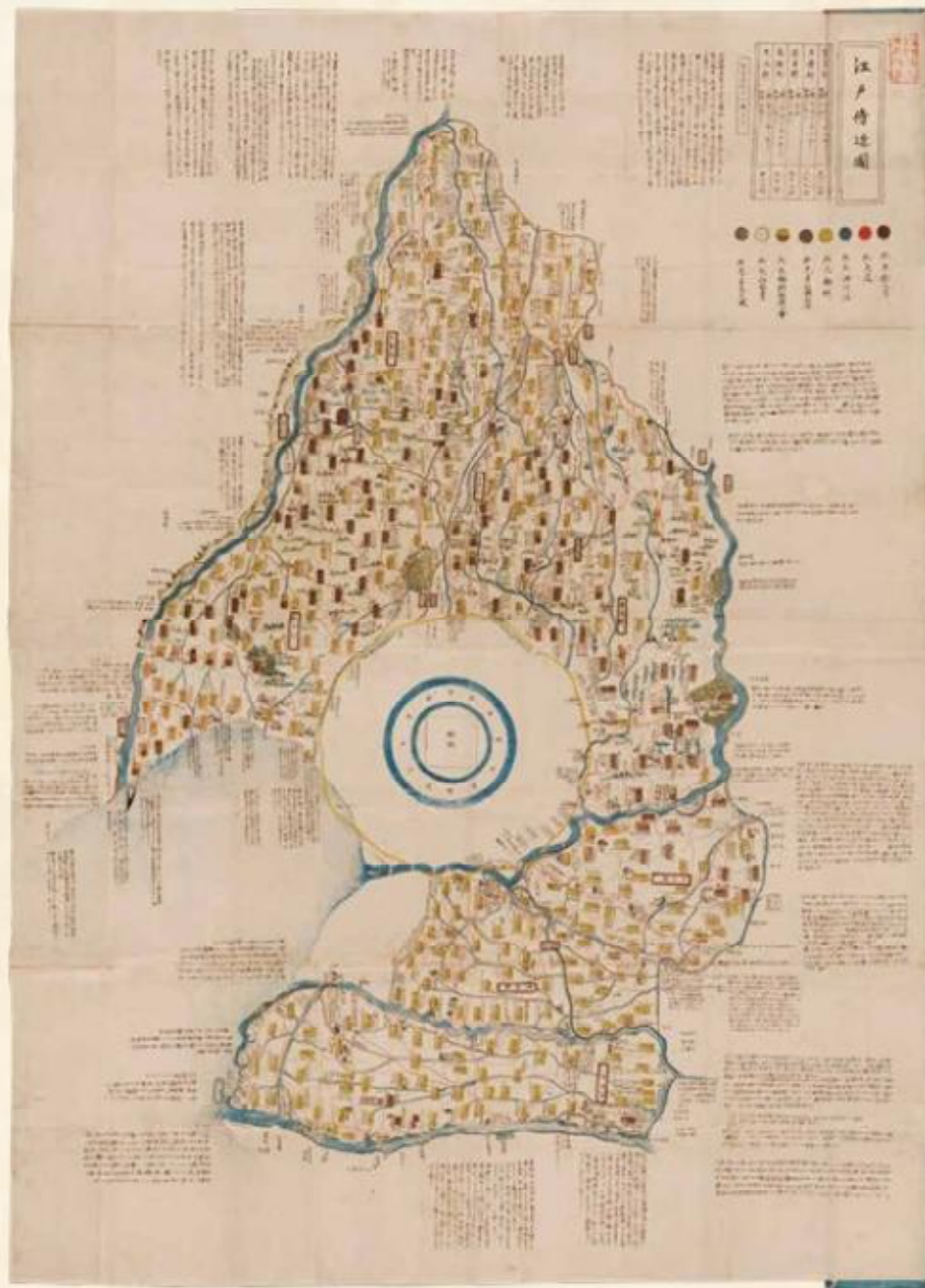




寛政6年(1794)11月、地理学者・古川平次兵衛が幕府に提出した武蔵国の江戸御府内以外を対象とした地図です。ほぼ江戸十里四方に該当する村々の位置と、街道、地形、名所旧跡の位置を示し、河川や用水についても詳しく記されています。また、村の萬士を「上々」や「下々」のようにランク付けしていることも興味深いところです。

作成者の古川は古松軒の名で知られる地理学者で、越中国下道郡岡田(現・倉敷市真備町)に居住していましたが、天明8年(1788)に実施された幕府巡見使による奥羽・蝦夷地域の地理・風俗調査に抜擢されて随行し、その成果を『東遊録』としてまとめました。この書を通じて松平定徳の知己を得ていた古松軒は、寛政5年に幕府から出府を命じられ、地境に関して幕閣からの聞き取り調査などを続けていましたが、翌6年2月、武蔵国豊島・多摩・荏原・葛飾4郡にわたる村々の地誌調査を命じられます。

こうして、曾根俊・柏原由右衛門、小入昌村・藤田前三郎とともに、村々の萬士・権座・神社・仏寺・名所・旧蹟・古蹟・習俗・古語・古文書等の実地調査を開始し、同年8月下旬までに調査を終え、その後編集・調整を加えて11月に京りに戻りこれを『江戸傍近図』として提出しました。この時に添えられた地図がこの江戸傍近図です。

江戸傍近図

豊島郡、多摩郡、荏原郡、葛飾郡、足立郡
地名、土地等解説付(帙書：江戸傍近図)
654-02-03-05 (ZA-118)